

【概要報告】美濃市 将来の学校のあり方検討会（第1回）

日時：令和5年6月22日（木）19:00～

会場：美濃市防災中央コミュニティーセンター

司会：美濃市教育委員会 教育総務課課長補佐

1 挨拶（美濃市教育委員会 教育長）

- ① 美濃市教育のあり方を考える会にしたい。
- ② 今、どこの自治体でもこれが話題になっている。美濃市では2年前から検討を重ねてきた。
- ③ 委員の皆さんの知見をもとに思いを出して欲しい。



2 委員の委嘱 及び 自己紹介

- (1) 自己紹介 <各自>
- (2) 座長選出 学識経験委員が座長となる要綱により、原尚委員を座長に選出
- (3) 諮問書手交 島田教育長が諮問書（別紙）を読み上げ、原座長に手交

3 検討会の趣旨説明

- (1) 「将来の学校のあり方検討会」の役割（教育長：資料別紙）

- ① 変化の激しい、予測困難な時代
予想をはるかに超える社会の変化 未経験・未知の課題 予測困難な時代
- ② 急激な人口減少 少子高齢化
確実に減少傾向にある美濃市の人口
- ③ デジタル化
遅れている日本のデジタル化
- ④ グローバル化
犯罪も国際的 お金、知識、技術が国境を超えて行き来する時代



このような現代にあって、大人は…

- ア、カーリングママ（先回りをして失敗させない） イ、準備し失敗させない授業
ウ、誰一人取りこぼさないことを旗印とした過剰な支援をする学校教育
… 親も先生も一生懸命やってきたのだが …

こんな社会に育つ子供たちは … 見られない必死に逆上がりの練習をする子供

- ア、増える不登校(R4は49人) イ、増えるいじめ(R4に61件…傷つく子の存在)
ウ、生活経験の乏しさ エ、無気力な子供 オ、スポーツ人口の減少
カ、集団で遊ばない子供 キ、してもらうことが当たり前の社会
主体的に課題に立ち向かい自分力で困難を乗り越える、変化に対応してたくましく生

き抜く、そんな子供に育てたい。

子供たちの「自分で何とかする力」を育むための5つの手立て

- ① 子供の主体的な学び 一人一人に応じた学習課題や活動
- ② 仲間とともに取り組む学び 探究的な学習や体験活動の重視 もっと考える時間が欲しい
- ③ 試行錯誤・トライ&エラーのある学び 挑戦、失敗、苦労、工夫…
- ④ ICTを活用した学び 情報リテラシー 道具としての活用
- ⑤ 地域ぐるみの学び 「地域で学ぶ」高めたい保護者・地域住民の当事者意識

学校は・・・これまでと同じことをしてはダメ

そのための取り組み『ここから始める学校の未来プロジェクト美濃』(本年度から)

- ① 基本は安心できる集団であること
- ② 自分で何とかする力をつけるための11の課題
- ③ 今の話の中心は学校内部で変革していくことだが、それだけでは改革は難しい
どんな学校規模、教育環境が必要か、ハード面を含めて検討願いたい

(2) 市内小中学校の現状と県内各自治体の取り組み (学校教育課長)

資料1 児童生徒数の変化の資料 表&グラフ

今後、小学校は毎年30~40人減少

美濃中学校は6年後300人を切り、昭和中は7年後に100人を切る

資料2 全力学力・学習状況調査の結果

学力 県や全国平均と比べても学力的に遜色はない 学力はついている

意識 6年生の「自分に良いところがある」 R1=81% R4=75%

「失敗を恐れなくて挑戦」 R1=75% R4=73%

だが、困っているときに進んで助ける 89% 困りごと相談できる 74%

ICT 機器の活用 全国や県と比べると活用は進んでいる

中学生にも同様の傾向が伺える

資料3 市外の各自治体の取り組み状況 (分かっている範囲の情報)

学校再編等の動き

郡上市：学校の統合 関市：学校の統合に加えて校区の変更を検討

山県市、大垣市、土岐市、恵那市、飛騨市なども検討中

学校選択制の動き

本巣市全域 瑞穂市全域 大垣市1校 美濃加茂市2校 可児市1校

その他

各務原市 (校舎建替え基本方針検討中)

4 意見交流

<グループA>

- ・かつては遊びも山歩きも、近所の縦社会の中で学び、先人の知恵を学んだ

- ・あまりにも危ないことは、近所の人が叱ってくれた
- ・中有知は農家の方が多い その特色を生かした学校の勉強を大切にしたい
- ・新しく地域に入った人への冷たい対応は再考を要する … どの人(じん)や？
- ・多様性と言う言葉は広がっているが、生活に根付いていない
- ・親がどれだけ考えても、子供の答えにはならないことがある
- ・子供たちが何を望んでいるのか、みえてこない
- ・土曜日の授業を復活してほしい
- ・手を汚す、汗をかく、怪我をするような3Kの仕事を子供たちは見ていない
- ・小さな企業は賃金アップにすごく苦労している
- ・一旦市外に出て戻ってきたが、美濃市は家庭をもって子育てするには最高の町
- ・関では何人もの小学生がわかくさの施設で勉強している。子供の居場所があるのは大切で、美濃は文化交流センターで400何円か払って勉強している。無料ではダメなのかと思う。
- ・(岐阜市の)メディアコスモスにもいっぱい学生がいる
- ・市内にも(勉強したり集まったりできる場所が)あるようだけれど、もっと充実させたい。駐車場は無料にしてほしい

<グループB>

- ・不登校の子に対して、先生ではなく、子供が声をかけるのが大切。
- ・親もフルタイムで働き、余裕がないので、子供に温かい気持ちで接することができないし、時間をかけて見届けることもできない。時間を見つけて子供の面倒を見るようなことをしないと子供は学校の勉強にもついていけない。勉強は学校だけで完結しなくて、親が手をかける余裕をどうつくるかが問題になる。
- ・学校で素晴らしい研修会をやっても、それに参加する保護者が限られている。その意識をどう変えるかが問題。本当に良い話だった。
- ・サポートの必要な親が増えている。子供も同じで、カームダウンルーム(パニック時に冷静になるための狭いスペース)が新商品になっているほどだ。
- ・親の不安定さの影響を子が受けている。そういう影響を受けて育った生徒をいかに安定した状態で生活できるようにするかが問題。
- ・子供の時間の保証、放課後の使い方の工夫、授業と家庭学習、多彩な道具、多様なスタッフが必要。
- ・教育に関わる公金の納付方法も幅広い選択肢があると良い。公金以外のことでも同じことがいえると思う。
- ・部活動も、夏休みの宿題も、選択肢があることがとても必要。
- ・給食も、メニューの選択とか、給食か弁当かという選択もうれしい。
- ・親の目線で良い学校と子供にとっての良い学校は違う。マスクも親の思いで着脱を強制はできない。幅広く、子供が自分で選ぶことができる学校であって欲しい。
- ・土幌交流事業でも、一年間留学プログラムぐらいの大きな企画があると良い。

<グループAまとめ>

- ・今の大人は、人とのつながりがある社会の中で育った
- ・市内はつながりが強すぎて新しい人が入りづらい一面がある
- ・もっと、いろんな人を認める多様性が大事ではないか
- ・厳しい社会で生きていく子供たちだからこそ、子供たちから意見を聞きたい
- ・子供が夢をもつことができることも大事
- ・子供が勉強したり遊んだりするスペースや施設はとても大切。市外の子供が来たく
なるような施設や図書館、子供は無料で活用できることや、無料駐車場が整っている
ことなど、自主的に集まれるスペースがあるとよい

<グループBまとめ>

- ・美濃市の学校の特色を作ることによって学校が楽しくなるのではないかと。子供が喜ぶ学校
にできると良い。子供の楽しみという意味でランチルームがある学校も良い。
- ・子供たちは関わり方が分からない。仲間との関わりが苦手な子供も友だちの誘いを
受けながら安心して暮らす。そんな学校をつくっていきたい
- ・授業での学習完結、家庭学習の考え方、放課後の使い方、子供の時間の保証、カリ
キュラムの組みなおしなど、考えてみたい。
- ・安全を守りながら、長期短期の留学も可能にできるような学校にできると良い
- ・子育ての研修講和を聞きたい親も、話を聞くより子供と一緒にいたい親もいる。子
育てに不安を抱いた親のサポートも必要。

【座長】

グループ討議を上手くまとめてもらった。それ以上に、止めなければ終わらないくらい熱心な委員さん方の交流に感動している。ぜひ次回からも、こうした話し合いを続けたい。本日の資料については、委員止めとしてください。

5 連絡

- ① この後第4回まで、検討委員会を予定している。また、第2回までに研修会も実施します。予定は後日連絡します。
- ② この検討会と並行して、「子供たちの意見」「先生たちの考え」「市民アンケート」「市民意見交換会」を計画している。いろんな意見を参考にして2月に未来の学校のあり方について答申できればと考えている。

【座長】 何か要望や意見はありますか。

<委員> 会議の予定を早く教えて欲しい。

<座長> 事務局は承知願いたい。

<委員> 委員の委嘱状は任期2年となっているが、1年で終わるのか。

<事務局> 要綱より、諮問に対する答申完成で任期終了を承知いただきたい。